



Vol.117



amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori

* 網張の森の生き物たち *

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori

柵に同化していた "オツネントンボ"

遠くまで見通しがよくなるほど、日に日に進む落葉が晩秋を感じさせる ある日、散策路のデッキロードでオツネントンボに出会いました。この 時期はガガンボやフユシャクの仲間など、どちらかと言えば飛翔力があまり 強くない昆虫を目にする機会が多くなり、この時も音もなく逆光の中飛んで 来て柵の上に止まったオツネントンボを「ガガンボ?」と勘違いしてしま うほど儚げな印象でした。カフェモカ色の体の線はイトトンボの名の通り 細長く、閉じた翅も一直線で目を離してしまうとすぐに見失ってしまいそ うです。トンボの特徴の頭の大半を占める大きな複眼を見て、ようやく 「トンボだったか」と認識できました。よく見れば肉食の証しでもある鋭い 棘が、歩くことが苦手な細い脚に規則正しく並んでいました。トンボは長い冬 を卵かヤゴで過ごす種類が多い中、オツネントンボは成虫のままで樹皮の下や 建物の隙間などで春を待ちます。「こんなに、か細い体で半年近くも続く 寒さや乾燥、時には吹雪などの過酷な環境に耐えられるの?」と疑問が湧き 起こりましたが、この場所にこうして存在しているのが何よりの証拠。 春が来ればすぐに活動を始め、競争相手があまりいない中でより多くの 食べ物を捕り、相手を見つけて卵を残すことができる…。 見た目からは 想像もつかない底知れぬ忍耐力を感じさせられた出会いとなりました。

What is "Otsunentonbo"?

「成虫越冬するトンボ」

アオイトトンボ科 体長:約35~41mm 分布:北海道~九州

成虫越冬する3種の内の1種。他にホソミオツネントンボ、ホソミイトトンボがいる。 冬を越して成熟したオスの複眼背面は青みを帯びるが、体色は淡褐色のままであまり変化しない。成虫は氷点下の低温にも長期間耐えることができる。

(参考図書:「日本のトンボ」他)



紅葉も一段落し、カラフルだった落ち葉が茶色に変わりつつある網張の森に、冬型の気圧配置が もたらす初雪が届けられました。

白銀のもたらすものは、様々なものを覆い隠すだけではなく、雪の隙間から見えるものを際立たせてくれます。風と雪、時折の陽射しが入り混じる不安定な天候の中、積もった雪が消えないうちに森へ向かう事にしました。



初冬の森をゆっくり歩くと、奥ゆかしい色が見え隠れする。



休暇村に滞在していた台湾からの旅行者たちは、地元ではほとんど見られない雪景色に歓声をあげていたそうです。雪には日常を非日常に変える魔法のような力がある気がします。朝、自宅のカーテンを開けた瞬間に誘われる銀世界に、高揚感を覚えた方も少なくないのではないでしょうか。日本人は民族的に白色を好む傾向があり、車の人気色ランキングにもそれが表れます。ちなみに、白や灰色・黒は「無彩色」、赤や青・黄色などは「有彩色」に分類されます。「有彩色」とは、色相(色の性質)を持つ色のこと

を指し、色の三要素(色相、明度、彩度)によって区別され、特に彩度(色の鮮やかさ)を持っていることが特徴です。「無彩色」は色相や彩度を持たず、明度だけで表される色を指します。



園路の雪はほぼとけていたので、落ち葉をかさこそ踏みしめながら白樺ロッジ方面へ足を進めました。まだ赤く染まりきらない草紅葉や、夏の忘れ物のようなアラゲハンゴンソウの黄花が静かに揺れています。有彩色が徐々に舞台を降り、それをねぎらうかのように無彩色が地表を覆っていく、少し先の情景が浮かびました。



参考図書:深澤 孝也『アトリエ 色の技法』

Amihari Birds

アミハリ・バーズ Vol. 60

イカル

科名: アトリ科 全長: 約23cm 生態: 地域によって、

夏鳥または冬鳥 分布:北海道、本州、

九州



落葉が進み、すっきりとした森を歩いていると、「キキコーキー」と朗らかなイカルの声が響いてきました。今年はブナをはじめ木の実の結実が良く、越冬のため暖地へ移動するイカルにとって恵まれた状況のようです。黄色く太いくちばしに、黒い仮面をかぶったようなユーモラスな姿が特徴で性格は穏やか。「和をもって貴しとなす」とされる聖徳太子の『十七条憲法』序文のモデルになったとも伝えられているように、調和を大切にする鳥として知られています。夫婦の絆も強く、歌うように鳴き交わすその様子は、まるで舞台の演者のような「鵤」です。

おかげさまで今年度、開設20年目を迎えます!



スタッフの目から見た網張ビジターセンターの20年

大堀 拓 (元網張ビジターセンター主任解説員)

第四話「ビジターセンターを訪れる人たち」

毎年のようにビジターセンターへ顔を出していた人が姿を 見せなくなると、また新しい人が現れる。自己紹介しあう訳 でもなく名前も知らないうちに顔見知りになっていくのがビ ジターセンターでの対人関係です。来館者の国籍も住所も年 齢も性別も勤務先も学歴も関係なし。対応内容は登山ルート の説明に始まり、難解な植物や昆虫の同定、クマへの対処法、 天気予報、火山情報などは当然の事、賢治/啄木文学、観光地 の見所や温泉紹介、道路とガソリンスタンド案内、地元の飲 食店や宿泊施設の紹介、移住相談、時には家庭内の悩み事相 談にまで及びます。答えられずに恥ずかしい思いで調べ直す 日々の連続。そういう中でスタッフは鍛えられていきます。 夏のシーズン中は昼食を摂る暇も無いほど来館者対応に追わ れますが、木枯らしが吹き始めると訪れる人の数はぐっと減 ります。火が入ったペレットストーブの前でゆっくりと来館 者の話に耳を傾ける、スタッフにとって至福の時が訪れます。

地元生まれで山が大好き、80歳近くなっても現役の大工 さんだったOさんの話、「昔はブナの木を『カラス止まり』と 呼んだ。それ位しか役に立たないということさ」とか「戦前は 親父に岩手山の『お山掛け』に連れていかれた。宗教登山以外 で山に登るなんて誰も考えなかったのさ」。岩手山岳界の重 鎮、Sさんからは何も無い戦後復興期、米軍払い下げの装備 で岩手山の岩壁に挑んだ若き日の話を聞かせてもらいまし た。網張温泉の元管理人だったMさんは雪が積もると何日間 も人の顔を見ることがなく久しぶりに登山者が登ってくると 嬉しくてたまらなかったと話してくれました。ビジターセン



網張温泉の元管理人さん

ターとは実際に山に登らなくなった 高齢の方が古い山道具に囲まれて若 い頃の思い出に浸ることのできる場 所でもあったのです。私達が来館者数 の増減を気にしていると、テラスのオ オヤマザクラが咲く頃に決まって訪 れたリピーターNさんから「ビジター センターは来館者数を競う為の施設ではありません。自然に 興味のある人にじっくり対応するのが本筋です」と厳しい言 葉を頂いたことも忘れられません。スタッフの間で「鳥おじ



鳥おじさん

さん」と呼ばれている男性は全国の 旅先で撮った鳥や花の画像を持参し ては「これ何だ?」と難題を吹っか けてきます。「良い料理店はお客さん 自身が育てるもの」と聞いたことが ありますが「良いビジターセンター は、ビジター自身が育てるもの」と 言えるかもしれません。来館した若

いカップルに赤ちゃんが生まれ、その子が来る度に大きくな り、やがて生き物に詳しくなり、スキーが上手になっていく のを見ていると、彼らの成長の過程がビジターセンターの歴 史と重なります。その中の一人「ひなたくん」はキノコが大 好きな小学生になってビジターセンターでキノコに関する 展示発表をしてくれました。私達はこういう子どもたちを秘 かに「網張キッズ」と呼んでいます。東京の「はるとくん」 も初めて会った時はまだ幼くて自分より大きな虫取り網で

トンボを追いかけていました。毎年 家族で網張を訪れ、そのうちに妹の 「なっちゃん」が生まれ、いつの頃 からか兄妹でビジターセンターの 仕事を手伝ってくれるようになり ました。「はるとくん」から「将来、 ビジターセンターのようなところ で働くにはどんな勉強をしたらい ^{はると君となっちゃんとお母さん}



いの?」と真剣な表情で聞かれた時は驚きました。

都会の暮らししか知らない大学生、不登校の子供、作業所 で働く障碍者、様々な境遇の人たちが網張を訪れ、館内を見 て、森を歩いて、みんな穏やかな表情になって帰っていきま す。そんな時のスタッフの気持ちを京都から来た女性が見事 に言い当てました。「ここで働いているといろんな人と出会 うでしょう。それがあなた達の幸せなんでしょうね」。

網張の森 定点観察③

東北森林管理局によると今年度のブナの開花状況、結実状況ともに「並作」です。「豊作」とまではいき ませんでしたが、森を歩くとたくさんのブナの実が落ちています。豊かなめぐみが命を繋いでいきます。



湯ノ沢橋 撮影: 10/21

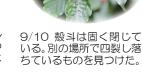
目線の高さで樹木の変化を観 察できるおススメスポット。見 下ろす清流の眺めも格別です。

9月3日に職業体験で訪れ た雫石町立雫石中学校 2 年生 4名と一緒に橋の高さを測定し ました。中心部の床版から川底 まで約7.6mでした。

ブナ (ブナ科)



8/14 冬芽の芽鱗がし っかり見える。葉柄や 葉に見られた毛茸は あまり目立たない。





10/21 開いた殻斗か ら堅果が見える。堅果が 落ちてしまったものが 多い。黄葉が美しい。



11/14 葉はほとんど落 ちた。たくさんの殻斗が 口を開けて並んでいる。 足元には堅果がたくさん 落ちていた。

トチノキ(ムクロジ科)



8/1 果皮が茶色みを帯 びてきた。虫食い跡のある果実が複数落ちて いた



9/14 裂開途中。種子 が僅かに見える。森の あちこちにトチの実が



10/21 葉が黄色に色 づいた。樹上に果実は見 当たらない。近くでツル リンドウが咲いていた。



11/14 葉がすっかり 落ちた。絡みついたヤマブドウの実が目立 日に照らされて冬 芽が輝いている。



実りの秋、色鮮やかな森で

(画像提供:岩手山地区パークボランデ

9/21 「鞍掛山麓 ハイキング&写真入門」



生憎の天気で したが講師より 「実はピーカン の晴の日より曇 や雨は写真日 和。雨ならでは

の出会いもあります」とのお話から始 まり、雨の森に出かけました。「雨音 や植物の緑の色がきれいだった」「森 の中を歩くと癒される。歩きながら写 真を撮るという目標ができた」参加者 感想より。総勢 22 名。10/6 に「ア フター写真入門」を行い、参加者が行 事当日に撮影した写真を鑑賞し、講師 よりアドバイスをいただきました。

10/20 ~網張ビジターセンター 開設 20 周年記念行事~ 「紅葉の森さんぽ&たき火体験」



肌寒いなが らよく晴れた 行楽日和。鮮 やかに色づい た木々の葉や ブナの実等を 観察しながら

網張温泉キャンプ場へ。 薪を並べ火を 熾し、パチパチと燃える火を囲みなが ら焼き芋やクロモジ茶も味わいまし た。「たき火は自分達でやるのはハー ドルが高い。参加できてよかった」 参加者感想より。総勢 15 名

インフォメーション

12/22(日) 『冬の網張の森でクリスマス気分☆』 (スノーシューハイキング)

> 9:30~12:00 網張ビジターセンター集合 定員:20名 ※要事前予約

参加料:大人800円 小学生以下400円 (スノーシューレンタル別途200円)

~網張ビジターセンター開設 20 周年記念行事~ 1/13(月・初) 『この時期しか歩けない! 冬の鞍掛山麓探検スノーシューウォーク』

9:30~14:30 たきざわ自然情報センター集合

定員:20名 ※要事前予約

参加料:大人800円 小学生400円 (スノーシューレンタル別途200円)

共催:滝沢市・滝沢市山岳協会・ (一社) 滝沢市観光物産協会

国立公園で楽しむ親子の自然体験 10/5「登山ガイドと登る、 🤭 うさぎ平トレッキング」



地図の見方 や山で出会う 動物や草花の お話等を聞き ながら標高 1,100mの うさぎ平を目

指しました。木々の実りが豊かで、実 を集めたり帽子にブローチのように付 けたりする参加者も。「食べたことの ない木の実を食べたり見たりして楽し かった」「最初は雲の中。だんだん晴 れてきて綺麗な景色を見ることができ た」参加者感想より。総勢 17 名

11/2 森のクラフト体験 「小刀でカトラリーを作ろう!」



網張の森 で伐採され たミズキ等 の材を使い 小刀でフォ -クやター ナー作りに

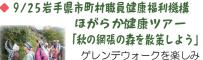
挑戦。ボランティアさんのノコギリや 鉈等を使ったサポートもあり、時間内 に形にすることができまいた。作業を しながら参加者から材や刃物、刃物の メンテナンス等についての話題も出ま した。「家に帰って作業の続きをやり たいと思うくらい楽しかった」参加者 感想より。 総勢 9 名

10/19~20 「しずくいし産業まつり」ブース出展

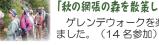
雫石町総合運動公園にあ る町営体育館内のブースに 網張ビジターセンターも出 展。網張の見どころやイベ ントの紹介、国立公園の PR 等を行いました。自然 素材の玩具でも楽しんでい ただきました。



●・▲ 依頼行事 ▲・●



◆10/3 雫石町立雫石中学校2年生



職業体験 森の魅力探し、クラフト用の 木の実採取等体験しました。 (4 名参加)



- ◆10/23 雫石町立雫石中学校1年生 職場訪問 たくさんインタビューして くれました。(4名参加)
- ◆ 10/24 雫石町国道 46 号ゆるゆるアウトドア研究会 「網張の森散策と

ツリークライミング」 紅葉の森を楽しみました。 (8名参加)



◆ 11/13 「岩手県自然 保護関係職員合同現地 研修会」(43名参加) (画像提供:岩手県自然保護課)

- 現在開催中のビジターセンター企画展 -

- 畠山 昇 写真展 -「厳冬の三ッ石山~八幡平」





山行や旅行などで訪ねた際に、とき折々の景色に カメラを向け、薄れる記憶をつなぎとめるため 撮りためた写真の中から、今回は、網張から大松倉を 越えて三ッ石山まで、大深岳周辺そして八幡平の 冬景色を紹介します。無積雪期とは違った厳冬の 裏岩手の風景をご覧いただければ幸いです。

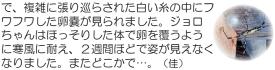
- 出展者の言葉より -

モモンガのつぶやき

田畑にトンボがたくさん飛ぶ頃の楽しみの一つは ジョロウグモ(通称"ジョロちゃん")を観察するこ と。金色の糸で作られた円形の巣の真ん中で逆さまの 状態で獲物を待つジョロちゃん。秋の風が吹く頃には 貫禄ある大きな体になり目立ってきます。珍しく頭が 上の時があり、突然お尻から"ピッ"と雫が飛び出し ました。おしっこかな?すぐにクルッと逆さまに。 初雪の便りが聞かれる頃、風のあたりにくい梁の下 で、複雑に張り巡らされた白い糸の中にフ ワフワした卵嚢が見られました。ジョロ

ちゃんはほっそりした体で卵を覆うよう

なりました。またどこかで…。(佳)



十和田八幡平国立公園 網張ビジターセンター

来館者数 ◆ 9月 2,022人 ◆ 10月 1,960人 朝9時のビジターセンター平均気温 ◆ 9月 14.2℃ ◆ 1 0月 8.9℃

網張ビジターセンター運営協議会 発行

〒020-0585 岩手県岩手郡雫石町長山小松倉 1-2 (網張温泉)

TEL 019-693-3777 FAX 019-693-3778

URL http://amihari17.ec-net.jp E-mail amihari@vanilla.ocn.ne.jp

冬期 (11月から3月末まで)9時~17時 毎週火曜日休館 年末年始休館(12月29日~1月3日)